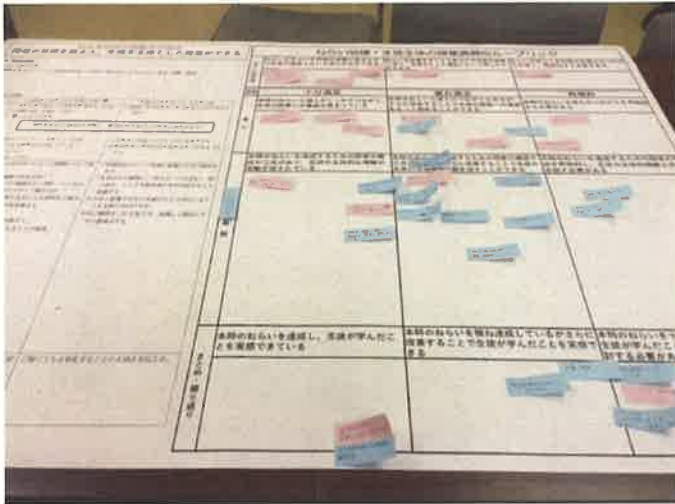


【初任研の学校訪問】



11月15日に初任研に関わる教育センターの学校訪問があり、生物の南口哲也教諭が1年生の生物基礎で研究授業を行いました。南口教諭の授業は、「問い」を与えて、その答えを教科書やプリント等を使って、生徒同士で教え合いながら、答えに到達させようという学習スタイルです。教員は、授業の最初に板書を主に使って、「問い」やその答えに関するおおまかな知識等について説明したあとは、巡回しながら生徒の質問に答える役回りに徹します。答えは最後まで言いませんが、授業の最後に必ず振り返りを書かせ、それを全員分まとめたプリントを次時の最初に提示することを年間通じておこなっています。

なお、この授業については、↓教頭・副校長協議会松江支部の研修会でも公開予定です。

日時	平成31年1月10日(木)		
	6限	14:15~15:05	公開授業 [1年生教室] ”生物基礎”
		15:15~15:45	授業研究 [会議室]
会場	松江東高等学校		

～授業研究の記録より～

○自評

- ・いつも通りの授業ができた。生徒の意欲はいつも以上に高かった。次時の学習内容を訊いてくる生徒もいた。生徒だけで答えに到達できそうなグループは、質問があってもその場からすぐ離れるようにしている。生徒だけで答えに到達できそうにないグループの時はその場に立ち止まるようにしている。
- ・生徒の中で協働・学び合いを嫌う子がこのクラスでも最低1名はいる。どう対応するか試行錯誤である。また、「問い」の工夫が必要だと感じている。それによって生徒のモチベーションも変わってくる。生徒のレベルに近すぎても遠すぎてもだめである。いろんなご意見をいただきながら、今後もこのスタイルで続けて行きたい。

○先生方からのご意見

- ・スタートとゴールがはっきりしていてわかりやすかった。ねらいも明確であった。他者に訊くことと自分で考えるべきことのすみ分けが難しいと感じた。他者に訊く場合、生徒同士が良いか教員に訊くべきか、そのことも意識した授業構成の工夫がされているかが今後大事になってくるであろう。
- ・本時の目標が、「細胞性免疫のしくみを、専門用語を使って他者に説明することができる(思考・判断・表現)」であったが、具体的な病名等を出した方が良かったと思う。動画などを入れるとインパクトがさらにあっただと思う。
- ・目標が答えになっていないか。振り返りをその場で発表しても良いと思った。
- ・生徒主体になっていて良かった。ねらいも明確であった。ICT 機器を使うことでイメージを強化できるのではないかと。ただ、知る手段は多くある(教科書・ノート・プリントなど)ので良い。振り返りシートを授業毎に作ることはなかなかまねできない。
- ・日々の積み重ねで、発問や質問がしやすくなっていると感じた。実生活とのつながりがもっと意識できれば良いと思う。生徒が、わかる人を探そうとしているのがすごいと思った。
- ・30分の学び合いの時間は適当であった。具体的に学ぶ道筋が示してあると良いと感じた。最初に板書されたことは、ICT 機器を使った方が効率的であると感じた。すぐ学び合いになるが、自分でじっくり考える時間も必要ではないか。教員が質問に答えている時に、そのグループにしかそのやりとりが聞こえない。やりとりをもっと他の生徒に聞かせた方が授業としては公平であると思う。
- ・ジグソー法的な方法で理解を深めることはできないか。また、「問い」に対する「答えのプリント」があっても良いと思う。
- ・教えずぎずに考えさせるようにしていたのが印象的であった。生徒それぞれに学び合いの学習スタイルがあって、それが容認されているのが良かった。
- ・生徒が主体的であるこうした授業はとても興味深かった。振り返りシートをもっと活用できたら良い。

<学習指導案>

(1) 本時の目標

細胞性免疫のしくみを、専門用語を使って他者に説明することができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

時	学習活動と予想される生徒の反応(●)	指導上の留意点(○)と支援(☆)
ガイド 15分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りへの返答を確認。(2分) 本時の問いを知る。(3分) <ul style="list-style-type: none"> ●メモをする準備 内容のアウトラインを聞く。(10分) <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな細胞がかかわっている。 ●ややこしい。 ●病原体ってなに。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学びを簡単に振り返ることができるよう話す。 ○全てを解説するのではなくアウトラインを説明する ☆専門用語の部分は生徒自身が見つかるようにする。
学び合い 30分	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の学び合いによって課題について説明し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ●まずは各細胞の名前を書こう。 ●どの細胞とどの細胞がどう関わっているか。 ●結局病原体はどうやって倒すのか。 ●言葉による説明や文章による説明など様々な表現方法で学びを定着する。 ●よくわからない。誰か教えて。 ↑この言葉が聞こえることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視によって気軽に質問しやすい環境を作る。 ○生徒からの質問に、「答える」のではなく「問い返す」ことで生徒自身の学びが深まるよう意識する。 ☆うまく協働できない生徒がクラス内にいることを全体に声がけする。 ☆同じ質問をした生徒には、協働して解決しやすい誘導をする。
振り返り (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを振り返り、振り返りシートに短く文章化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短くても文章化することの大切さを伝える。

(3) 本時の評価

	概ね満足できる	努力を要する生徒への手だて
<ul style="list-style-type: none"> 細胞性免疫のしくみについてリンパ球などの専門用語を使って、適切な説明(文)を作ることができる。 免疫のしくみについて深まる問い(なぜリンパ球は増殖するのかなど)を立て、質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞性免疫にかかわるリンパ球の種類を答えることができる。 細胞性免疫による病原体排除の流れを大まかに他者に説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や配布プリントを丁寧に読むことを促す。 各専門用語や細胞の種類について確認させる。 周囲の生徒への協力を声がけする。



【インドネシアの高校生が本校を訪問しました】→

11月11日インドネシアの高校生が、JRCの関係で本校を訪問しました。当日は英語の授業にも参加。まず、インドネシアのことを、ホワイトボードを使って図示しながら、わかりやすく英語で説明。そのあとは、生徒の中に交じって楽しく授業を受けていました。

同世代であり、親しくなりたい、相手をもっと知りたいという気持ちからか、本校生徒も英語を駆使して会話をしていました。

←【中四国音楽教育研究大会が本校でありました】

11月22日本校を会場に音楽の公開授業がありました。能を鑑賞し、「間(ま)」の意味について、グループで考えさせるものでした。能を鑑賞することで「目には見えない、耳には聞こえない何か」を感じ、または考えることで、現代日本人が忘れてしまった五感以外の感覚や感性を探り出そうという試みだったと思います。生徒も興味深かったのか、活発な意見が交わされていました。

